

郡上市の未来を市長と語ろう!

～平成29年度 市長と語ろう!「ふれあい懇談会」～



市では、市民のみなさんから、市政に対するご意見・ご提言を市長が直接お伺いし、市政運営に生かすための広聴事業として「市長と語ろう!ふれあい懇談会」を開催しています。今年度は、「観光立市郡上」をテーマに各分野にわたりご意見を伺いました。今回は、美並、大和、高鷲、八幡会場の意見交換の一部を要約して紹介します。

美並会場 (9月27日)

●観光立市について

観光立市郡上は、単に観光客を増やすことを目的とするのではなく、観光を切り口として様々な分野に波及効果がある構想とのことであるが、この取り組みにより、観光業以外の事業者にはどのような効果が見込めるのか。

市長：観光は、来ていただき、楽しんでいただく中で、泊まる・物を買うなど消費してもらうことが大事である。観光客が多く訪れる地域において宿泊や飲食をするとして、その食材は美並地域から仕入れるなど、観光を引き金とした経済効果を市内の幅広い産業に波及させることができる構造を作っていきたいと考える。

●ツエルマツト視察について

ツエルマツトを視察された結果、郡上市においてブルガージェマインデのような組織を導入される予定はあるのか。

市長：ツエルマツトの取組は、観光地づくりの一つのケースと考えており、本質的に何に取り組んでいるかを見て、郡上市の観光地づくりを進めることが大切である。ブルガージェマインデは、地域外から資本を呼ぶので

はなく、地域の人たちが自分たちの力で実施しているという一つの事例であり、郡上市ではどのような仕組みを作ることができののか学ぶ点は多いと考える。

●道路・河川等の除草について

美しい景観を守ることは、地域住民としても誇りであり、来られる人に対しても好印象を与えられると考える。道路法面や河岸は雑草が生い茂った状況となっている。獣類の棲み処になるなどの問題もある。住民だけでは対応できない部分もあるため、要望を行うなど支援いただきたい。

市長：河畔林等のことと思われるが、景観上も良くないので、国や河川管理者等へ強くお願いしていきたい。

大和会場 (9月29日)

●小中学校のカリキュラムに自然体験を導入

市では、日本一住みたいまち、子育てしやすいまちということなどで、多くの取組をされているが、人づくりに関しては、教育という面が重要と考える。小中学校のカリキュラムに自然体験を取り入れることができないか。

教育長：公立学校としては、知徳体のバランスのとれた子どもを育てることを目的としてお

り、郡上弁でいう「甲斐性があって、まにあう子ども」を育てていきたいと考えている。現状として、学校の授業に自然体験を取り入れることは難しいが、小学5年、中学1年で宿泊研修を実施するとともに、公民館活動などに参加することで体験させていきたい。

●郡上カンパニーについて

郡上カンパニーは、認定されたプロジェクトを都市部の若者と連携しながら取り組むものであり、地域産業の創出や都市部からの移住促進に向けた重要な未来への取組と考える。この事業を継続的に実施していただきたい。

市長：郡上カンパニーは、少なくとも3年程度は継続して取り組まなければならないと考えている。市外から若い人を呼び込み、地域資源を活かした産業の創出に繋がるなどの実績を見ながら、今後も事業を発展させていきたい。

●どぶろくによる地域活性化について

大和町のどぶろく特区では、2銘柄が作られており、大和観光協会においては、長良川鉄道と連携して「どぶろく列車」を企画するなど、どぶろくを活用した地域の活性化に取り組んで

いる。

全国のどぶろく特区関係者が集まる研究会が毎年各地で開催されている。将来的には郡上市で開催したいと考えているので、市の支援をお願いするとともに、来年度岩手県遠野市で開催される研究会に市長にも出席していただきたい。

市長：食は観光に欠かせない要素であり、地域にとって大きな魅力となるものである。「めいほう鶏ちゃん」や「奥美濃カレー」がB-1グランプリの大会に参加する際には、日程の調整ができれば応援に行っている。どぶろくの研究会についても参加できればと考える。地域としてどぶろくを大きく育てていただくよう、品数の充実にも努力いただきたい。



高鷲会場（10月3日）

●西洞地区道路整備について
高鷲町上野地区と西洞地区を

結ぶ北部農道の建設が進んでいる。この道路整備により、高鷲の中を周遊できるようになる。併せてダイナランドと高鷲スノーパークを結ぶ道路を整備すれば、生活面でも観光面においてもより利便性が高まると考えるがいかがか。

市長：提案の道路整備については、地図上では非常に近く感じられるが、実際に移動するためには一度国道へ出る必要がある。吹グラウンドとダイナランドを繋ぐことができれば非常に有意義であり、また地元からの要望もあるので検討したい。

●都市部に学生寮の設置

高校卒業後、市外へ就学される人のために、「郡上藩屋敷」というような学生寮を設置してどうか。郷里を同じくする仲間との結びつきは、将来の郡上市にとっても大きな財産となるのではないか。

教育長：現在、東京には岐阜県が支援している学生寮が2施設あるが、定員数に達していない状況のようである。最近の若い人は共同生活を好まないという傾向もあるようである。

市として独自の居住施設を設けることについては難しいと考えており、入学金や学費等に対する支援を行うこととしている。

奨学金については、郡上市に帰ってきていただく人については半額を免除するという制度も設けているので、活用いただきたい。

●高齢者の交通手段について

高鷲地域は、高低差が厳しく山道も多いため、車を持たない高齢者や障がいのある人の外出は非常に不便な状況である。公共交通はあるが、料金が必要であり、収入が少ない人にとって、厳しい状況と思われるので、利用しやすい公共交通網の見直しと継続的な支援をお願いしたい。

市長：公共交通については、高齢者の人たちに対して免許の返納を促していることもあるので、検討しなければならぬ。公共交通を維持するには、費用がかかるため、全ての状況に見合うサービスは難しいと考える。今年度公共交通に関する懇談会を計画しているので意見を伺っていききたい。



八幡会場（10月11日）

●郡上おどりに特化したまちづくりについて

八幡町には多くの財産があるが、時代に合った観光客に支持されるものを見つけて出す必要があると考える。郡上おどりは財産ではあるが、地元にお金を産み出していない。曲を聞くことによって権利金の収入を得ることや、アイテムの製作、踊りの雰囲気を出す食事の提供など長期的なプランにより実施しなければならぬと考える。

市長：郡上おどりを資源として活用していく必要はあると考えている。八幡中学校により浴衣デイが開催されているように、機運を高めていきたいと考えている。日本三大盆踊りin郡上を開催したが、来ていただいた2団体は若い世代の人が担われていると感じたので、郡上おどりについても若い層を増やしていく必要がある。

●地元食材の活用について

観光客にとって、食は観光の楽しみの一つであり、観光地にとって食はその土地の豊かさをアピールできるものである。旬の野菜や果物を直接農家から仕入れ、地産地消と銘打ったメニューが各飲食店より出され

ば、観光客を飽きさせないのではないか。商品開発を行う上で、農家との連携は重要なので、商品開発のしやすい環境整備をお願いしたい。

市長：郡上市に住んでいる人にも観光客の人にも喜んでいただけるスイーツなどを開発され、その材料に地元の素材を使っていたかどうかというのは、市が望んでいるところなので、生産者とのニーズの調整が図られるよう情報交換の場を設けることができるとうい。

●郡上市の魅力発信について

今、多くの物が全国の販売店やインターネットで買えてしまいが、どうしても買えないものが体験である。郡上市は自然を使ったものから、文化に付随するもの、職人の技を使ったクラフト体験まで多くの体験プログラムが開催できると考える。文化や自然を体験することによって、市民にスポットを当てて集客を行うことはどうか。

市長：郡上市産の桜を使った下駄で郡上おどりに参加するといったように、下駄一つにも物語があるということに魅力が感じられるので、こういった商品開発や食品サンプル・川遊び・農業体験などで、魅力あるものを作り出せるよう研究したい。